

## 落花生作況調査及び需給懇談会の開催

(一財) 全国落花生協会

(一財) 全国落花生協会では、毎年、落花生の主産県において、生産、流通、加工、輸入の各部門の情報を交換し、需給の安定に資するため、作況調査と需給懇談会を開催している。今年は9月11日に千葉県下で地元行政機関、関係団体等の協力を得て開催。参加者は、国、主産県行政・試験研究の担当者、生産者、産地及び消費地の加工団体関係者、輸入関係者等で約75名。

### (1) 作況調査の概況

最初に、千葉県農業総合研究センター落花生研究室〈八街市〉において、全国唯一の落花生専門の試験研究機関として、良食味・多収・耐病性などの特性を持つ落花生優良品種の育成を中心に、栽培試験や原原種の維持等を行っている概要や今年の生育状況について説明をしていただいた。

次に、富里市の新井辰吾氏のほ場は、品種は千葉半立で6月14日は種、10アール当たりの株数は4,975株となっている。輪作はスイカ→落花生→サトイモ→落花生の体系、病虫害防除は3回実施していた。生育は良好とのことであったほか、ナカテユタカのほ場も良好な生育であった。

また、香取市の香取 薫氏のほ場は、品種は千葉半立、5月18日は種、10アール当たりの株数は4,755株、輪作はサツマイモ→落花生→サツマイモ→落花生の体系となっていた。病虫害防除は実施していない。

### (2) 需給懇談会の概況

午後からの需給懇談会では、農林水産省から落花生をめぐる最近の事情や平成26年度事業について説明があった。

茨城県・千葉県からは、生育状況等についておおむね良好との報告があった。

また、平成26年度から中央農業総合研究センターなど研究機関・農業機械メーカー、関係団体等が取り組んでいる「落花生の超省力化生産体系の実証」事業の研究内容の説明があった。

海外の生産状況については、落花生輸入商社協議会から、中国、米国、南アフリカ、オーストラリア、南米諸国について作付面積や生育状況の報告のほか、日本の需給見込みについて報告があった。

また、(一社) 日本ピーナッツ協会から日本の消費動向の分析や今後の課題及び需要見込み等について、詳細な報告があった。